

第2章 秦野市障害福祉サービス 利用実態調査結果（利用者）

- 1 調査結果のまとめ
- 2 調査結果の詳細
 - ① あなたご自身について
 - ② 生活状況について
 - ③ 訪問系サービスについて
 - ④ 日中活動系サービスについて
 - ⑤ サービス等利用計画について
 - ⑥ 成年後見について
 - ⑦ その他

1 調査結果のまとめ

① あなたご自身について

(1) 調査票の回答者

「本人」(38.4%)が最も多く、次いで「家族や介助者(本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入)」(30.5%)、「家族や介助者(本人に聞きながら代わりに記入)」(28.8%)の順になっています。

「本人」及び「家族や介助者(本人に聞きながら代わりに記入)」を合算した割合は67.2%であり、概ね反映されていると考えます。

また、「家族や介助者(本人に聞きながら代わりに記入)」及び「家族や介助者(本人の意見を聞くことが難しいため、本人の状況から判断して記入)」を合算した割合は約60.0%と半数を超えていることから、障害者本人の意思確認や意思決定支援や障害者の生活を支える上で、介助者等の存在が重要となっています。

(2) 回答者の障害種別等

年齢階層ごとの障害種別の割合では、「身体」は「60～64歳」が最も多く、4割を超えています。「知的」は、65歳以上が多く占めています。「精神」は、「60歳～64歳」が多く占めています。「発達」は、0歳から就学前が多くを占め、7割半ばとなっています。

なお、障害種別ごとの回答数については、「知的」、「精神」、「身体」、「発達」、そして「高次脳機能」の順となっています。

② 生活状況について

(1) 日常生活の支援者

日常生活の主な支援者は「父・母」が最も多く、回答者に占める割合が49.8%となっています。次いで「総合支援法介護保険のサービス事業者」(19.0%)となっており、日常生活に欠かせない存在となっています。

(2) 相談場所

市内の公的な相談場所の認知については、「秦野市地域生活支援センター”ぱれっと・はだの“」が42.1%と最も高くなっていますが、「地域高齢者支援センター」や「権利擁護支援センター」は10.0%に満たず、地域での身近な相談場所としての周知が課題となります。

障害種別ごとでは、全ての障害種別においても「秦野市地域生活支援センター”ぱれっと・はだの“」が最も高くなっており、次いで、「相談支援事業所」の順になっています。

また、困ったときの相談先は、「家族や親せき」(29.3%)が最も多く、次いで、「かかりつけの医師や看護師」(12.1%)、「ホームヘルパーなどサービス事業所」(8.7%)の順に多くなっています。

(3) 外出時の困りごと

「家族やヘルパーの付き添いが必要である」(27.9%)が最も多く、「身体」、「知的」、「高次脳機能」で占めています。「精神」においては「安心して一休みできる場所が少ない」が最も高く、それぞれの困りごとに対応した、きめ細かな支援も併せて必要となります。

(4) 将来の生活

将来の暮らしについては、「家族(親戚)と一緒に暮らしたい(持ち家や賃貸住宅)」(37.0%)が最も多く、次いで「グループホームで暮らしたい」(16.8%)、「一人で暮らしたい(持ち家や賃貸住宅)」(16.1%)、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)に入所したい」(16.1%)と続いています。

(5) 就労支援について

障害者の就労支援で必要と思うことについては、「職場の障害者理解」(19.8%)が最も高く、次いで、「就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携」(15.5%)と続いています。このことから、障害者が就労を継続していく上で、職場における本人の障害特性等の理解を促すとともに、職場に対する支援を実施するため、職場と支援機関の連携体制を構築することが重要となります。

(6) 障害者差別及び理解

障害者差別について、「ある」と「少しある」を合算した回答数は68.5%となっており、6割半ばを超えています。

差別や嫌な思いをした場所については、「保育所・学校・職場」(33.5%)が最も多く、次いで、「電車・バス・タクシー」(17.4%)、「お店などの商業施設」(16.8%)と続いています。

また、障害者に対する理解については、「理解があると思う」と「やや理解があると思う」を合算した割合は58.9%となっており、5割半ばを超えています。

(7) 地域における関わり

地域の人とつながりを持てる場や、交流する機会の有無について、「ない」と回答した割合が44.2%と、4割半ばとなっています。次いで、「少しある」(32.5%)、「ある」(7.9%)と続いています。

「ある」または「少しある」と答えた中でも、「あいさつする程度」(36.8%)が最も多く、3割半ばを超えています。

住民同士の助け合いについては、「どちらかというと思わない」と「あると思わない」を合わせた割合は、48.3%と5割近くとなっています。

あってほしい住民同士の助け合いについては、「見守り・安否確認」(15.1%)、「急病などの緊急時の手助け」(15.1%)が最も多く、次いで、「気軽に居場所づくり」(13.4%)と続いています。

③ 訪問系サービスについて

(1) 訪問系サービスの利用状況

回答者の47.4%が利用しており、サービスとしては、「移動支援」(19.9%)が最も多く、次いで「居宅介護(身体介護)」(7.3%)、「居宅介護(家事援助)」(5.6%)、「訪問入浴」(4.5%)の順になっています。

また、障害種別でみると、「利用したことがない」は「児童」が最も多く78.7%となっており、8割に近くなっています。「移動支援」では、「知的」や「高次脳機能」が高くなっており、比較的利用していることが伺えます。

(2) 訪問系サービスの満足度

「満足している」と「やや満足している」を合算した割合は、70.5%となっており、「やや不満である」と「不満である」を合算した割合(20.0%)に比べて50.5ポイントほど高くなっています。障害種別ごとでは、「発達」は「満足している」割合が高くなっています。

なお、改善して欲しい点については、「利用できる回数や時間を増やす」(22.6%)が最も多く、次いで、「希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」(17.3%)、「利用できる事業者の数を増やす」(14.3%)の順になっています。

④ 日中活動系サービスについて

(1) 日中活動系サービスの利用状況

回答者の95.3%が利用しており、サービスとしては、「就労継続支援(B型)」(16.8%)が最も多く、次いで「日中一時支援」(15.3%)、「短期入所」(14.1%)の順に多くなっています。

障害種別ごとでは、「身体」で「短期入所」「生活介護」(18.6%)、「知的」で「日中一時支援」(23.7%)、「精神」で「就労継続支援(B型)」(31.5%)、「発達」で「放課後等デイサービス」(27.0%)、「高次脳機能」で「生活介護」(29.2%)がそれぞれ最も高くなっており、障害種別ごとに利用しているサービスは様々となっています。

(2) 日中活動系サービスの満足度

「満足している」、「やや満足している」を合算した割合は、75.7%と多くの回答者がサービスの内容に満足しています。特に「発達」では、「満足している」(50.9%)が5割を超えています。

(3) 改善してほしいと思う日中活動系サービス

「サービスの質をよくする」(12.8%)が最も高くなっており、次いで、「利用できる回数や時間を増やす」(12.6%)、「利用できる事業者の数を増やす」(12.6%)、「希望する曜日や時間帯に利用できるようにする」(12.2%)となっています。

障害種別ごとでは、「高次脳機能」においては、「利用できる事業者の数を増やす」が最も多く、2割を超えており、事業者の不足を感じているようです。

⑤ サービス等利用計画について

(1) サービス等利用計画の作成

サービス等利用計画を相談支援専門員（ケアマネージャーを含む。）に作ってもらっている割合は65.8%となっています。

障害種別ごとでは、「身体」、「発達」、「高次脳機能」が7割を超えています。

また、「いいえ」または「以前は作ってもらっていたが、現在はセルフプランである」と答えた方に理由を聞いたところ、セルフプランの理由としては、「セルフプラン以外を知らないから」（25.8%）が最も高く、次いで、「セルフプランの方が、負担が少ないから」（17.5%）、「相談支援専門員を必要と思わないから」（16.5%）の順になっています。

⑥ 成年後見について

(1) 成年後見制度の認知度

「知っている」と「聞いたことがある」を合算した回答数は56.5%となっており、5割を超えています。一方、「知らない」は39.7%となっており、約4割となっています。障害種別で見ると、「知的」は「知っている」（40.9%）が最も高くなっていますが、「身体」、「精神」、「発達」、「高次脳機能」では、「知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

また、「今後、自分の判断力に自信が持てなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いませんか」については、「よくわからない」（50.3%）が5割となっています。

障害種別で見ると、「高次脳機能」が最も高く、78.6%が「よくわからない」と回答しています。今後は成年後見制度の認知度を上げる取組みが必要と考えます。

「成年後見制度を利用することとなった場合、どなたに成年後見人等をお願いしたいと思いませんか」については、「家族・親戚」（50.3%）が5割を超えています。

⑦ その他

(1) 地域で安心して暮らしていくための取組

「介護保険や障害福祉サービスの充実」（24.2%）が最も多く、次いで「災害に対する支援体制の構築」（16.9%）、「雇用の場の確保」（13.0%）の順となっています。